



尚友会会長

岸本 大三郎

「いまこそ不屈の精神で 変革実現を」

毎日のトップニュースで感染者数が報じられるのを見るのが日常化して一年以上経ちました。当たり前の日常に戻れない辛さ、先行きの見えない重苦しさに耐えているのが実情ではないでしょうか。大阪府下においては2月末に感染者数が100人を切るまで減少しこのまま収束してほしいと期待しましたが、3月下旬頃からは変異型への移行と同時に第4波の感染急拡大が巻き起こりました。今や個人の生活のみならず社会構造にまで大きな変化を与え、もう元の生活様式には戻れないという悲観的な指摘も聞きます。

学園では対面教育の機会を奪われる痛手にも負けず、教職員各位、学生の皆さんが一丸となって危機に對峙し学習の成果を上げており、心からエールを送りたいと思います。

今年の大学入試においても素晴らしい成果が出ており国公立合格者は東大3名、京大4名を含んで前年比1.6倍の100名、関関同立などの難関私学は1.5倍の203名と急伸長しています。医歯薬・保健・獣医が前年比1.6倍の154名が合格し医学部系志望が継続しています。

尚友会の評議員会は昨年同様、メンバー各位に委任状提出をお願いし異例の超縮小メンバーで4月24日に開催致しました。6月のホームカミングデイも昨年同様中止となりました。全体忘年会も従来方式での実施が困難ですので現時点では中止と致します。新型コロナウイルスの鎮静状況をモニターしながら開催検討を継続し状況が許せば新たなスタイルでの実施を皆様に提案したいと考えています。異例づくめの内容ですがご理解を頂きますようお願い申し上げます。会員の皆様におかれましては、どうぞ体調に十分お気を付けていただくようお願いいたします。



金蘭千里学園 理事長・学園長

辻本 賢

「ごあいさつ」

例年、入学式までは桜に頑張ってもらいなんとか祝意に花を添えることができています。それが昨年は入学式を実施できず、今年の桜花は見る影もなく新緑の内に一八一人の新入生を迎えました。卒業式を振り返れば二月二十五日、次に一月二十六日が定期でしたが、今年は卒業証書通りの日付三月一日に一六一人が卒業し、尚友会に入会いたしました。

学校に一斉休校の要請はしないとのことで教育活動を継続しています。卒業生と現役生とを結ぶ機会として講演をお願いしました。例年四月の歯科検診もいまのところ延期になっていますがみなさんをお願いしています。理事会、評議員会はhands face, distance を守り、換気を行い粛々と開催しています。このように学校の教育活動に運営に多大のご協力ご支援を頂いています。有難うございます。

ことしも尚友会ホームカミングデイ、関東支部での同窓会の開催が中止され、秋のOBゴルフコンペはどうなりますことか、みなさんとお会いする機会が少なくなり寂しい限りです。

この原稿を書きながら、こんなことを思っています。

厚かましくもみなさまの専門の著作物を寄贈していただければなと思っています。図書室に卒業生の本コーナーができて、生徒が先輩はこんなことをしているのかと思いを起こせば、それだけでも十分に良い影響を与えらると思っています。また、AIに仕事を奪われ仕事が無くなると若者を不安にさせています。学校はそれに適切なアドバイスをするのが出来ないと考えています。つきましては、各ジャンルの先輩に相談できるチャンネルが構築されれば社会に開かれた生徒の知識が啓発されると思います。例えば、今日の放課後、いくつかのメディアブースで大学生が待っていてくれて学習の手伝いをしてくれる、いくつかの教室でいろいろな医科の先輩医師が待っていて、医師志願者の相談に乗ってくれるなど考えただけでもわくわくします。

私の最大の喜びは、みなさまのお子様をお預かりすることです。気軽に声をかけ下さい。



金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

「ご挨拶」

尚友会の皆様、日頃よりお力添えをいただき誠に有難うございます。ご存知のように本校は、独自の教育を行う古き良き金蘭千里から、様々な行事の導入、創立50周年改革を経て、学校の「リ」化(生徒全員に「Yes」の導入)、ナレッジイノベーションワードやクエストカップなどプレゼンテーション大会への参加など、新たなチャレンジを続けています。そして、本校での教育活動を通して、自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する、すなわち自律する力を身に付けさせたいと考えています。

昨年度はコロナ対応に追われましたが、それにつきましては別頁をご覧ください。今年度、国内留学プログラムとオンライン自習システムを新たに導入します。国内留学プログラムは中三から高二を対象とし、高一でのイギリス海外研修をメインに置きながら、海外研修に参加した生徒、参加できなかった生徒の両方を対象として、英語力のより一層の向上を目指します。最大の特徴は、少人数で英語漬けの環境を提供することです。また、オンライン自習システムは、生徒のより一層の学力向上を目指し、これまでも実施されてきた教員による放課後の補習や追試、個別指導、さらには諸テストの再編、学習記録ノート(現在は「Yes」による学習記録)の導入、授業アンケートの導入、中三・高一の英数習熟度別講座編成の学期ごとの入れ替えに加えて導入するもので、特に、主体的に学習する習慣が不足している生徒への夕方以降のサポート、分らないところを適宜質問できる環境の夕方以降の提供などを目的とし、教員も関わる形で進めていきます。

最後に、大学入試では今年もよく健闘してくれました。卒業生161名に対して、現浪合わせて国公立大学(海外含む)へ100名が合格、医学部医学科(海外含む)へ57名が合格するなど成果を出してくれました。詳細は別頁をご覧ください。